

令和6年盛岡市二十歳のつどい開催結果

◇ 概要

令和6年1月7日（日）14時から、盛岡タカヤアリーナを会場に開催されました。当日は、対象者 2,077人、その御家族 363人が出席しています。

二十歳の方によって組織された盛岡市二十歳のつどい実行委員 8人をはじめ、市内社会教育団体や多数のボランティアの皆さんによる協力を得て運営されました。

◇ 式典の様子



◇ 記念式典（令和6年1月7日(日)14時～14時30分）

【司会：盛岡市二十歳のつどい実行委員 大見 彩羽 辻野 里夏】

- 1 開式のことば
盛岡市二十歳のつどい実行委員長 菅原 那津
- 2 国歌斉唱
盛岡市民歌斉唱
- 3 二十歳を祝うことば
盛岡市長 内舘 茂
- 4 励ましのことば
盛岡市議会議長 遠藤 政幸

5 二十歳の決意

二十歳代表 大澤 蒼真 佐野 友菜 齊藤 莉得（手話）

6 閉式のことば

盛岡市教育委員会教育長 多田 英史

○ 二十歳を祝う言葉

二十歳を祝して 盛岡市長 内館 茂

はじめに、令和6年1月1日、能登地方で最大震度7を記録する大きな地震が発生しました。

各地で家屋の倒壊や火災、土砂崩れなどの大きな被害が確認されています。亡くなられた方々のご冥福と、心からのお悔やみを申し上げますとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。

また、1日も早い復旧・復興を願っております。

さて、今から37年前、私も皆さんと同じように、この盛岡で二十歳の記念の日を迎えました。その時から今も、私はこの盛岡を愛しています。

二十歳を迎えられました皆さん、本日は誠におめでとうございます。

ここにお集まりの皆さんは、職業に就かれている方、学業に励んでいる方、様々な場面で社会との関わりを持たれていることと思います。

世の中での人の心と心のつながりは 弱く儂ないものです。しかしながら、そこに、愛や信ずる心があるときこそ、その心の結びつきはこの世の何より強いものだと、そして、生きることは素晴らしいことなんだということを、50歳を過ぎた今も心から信じています。

これから皆さんには、夢や未来に向けて、きっとたくさんのワクワクすることが待ち受けているとともに、悲しいこと・苦しいこと・人知れず涙を流すこともあるでしょう。

私は、人生とは「涙が多ければ多いほど、悲しみが深ければ深いほど、その後の幸せは大きくなるものだ」とあらためて今、感じます。そこで、皆さんに是非紹介したい言葉があります。それは「素晴らしい船を創るためには、帆の張り方や釘の打ち方を教えるのではなく海の素晴らしさを教えよ！」というフランスの古い言葉です。

人生に例えて言うならば、素晴らしい人生を送るためには、字の書き方や計算の仕方を学ぶことだけではなく、「人生って素晴らしいんだ！ 生きることって楽しくて素敵なことなんだ！」、このことを人生の先輩として、お伝えしたいと思います。

そして、いつかこの言葉を思い出して、たった一度の人生を悔いなく進んでいってほしいと思います。

本日の二十歳のつどいを迎えるにあたり、今日まで深い愛情をもって育ててこられました保護者の皆様、心からお祝い申し上げます。

また、ご多用の折にもかかわらず、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、開催にあたりお力添えをいただきました多くのボランティアの皆様、準備設営いただきました皆様、深く感謝を申し上げます。

一人一人の力は小さくても、集まれば大きな力になると信じています。

皆さんと共に、明るく元気な、社会を創っていきましょう。

本日は誠におめでとうございます。

二十歳の決意 二十歳代表 大澤 蒼真 佐野 友菜 齊藤 莉得（手話）

令和6年1月7日、私たちは二十歳のつどいの日を迎えました。はじめに、このような式典を開催していただけることに、心から感謝申し上げます。また、内館市長をはじめ、来賓の皆様から、あたたかい激励の言葉を賜りましたことに深くお礼申し上げます。

二十歳という節目を迎え、これまでを振り返りますと、支えてくださったたくさんの方々を思い出します。私たちの誕生を心から喜び、たくさん愛情をかけて育ててくれた家族。喜怒哀楽を共にし、切磋琢磨した友人。厳しさと優しさをもって私たちを導いてくださった恩師の皆様。たくさんの方々に支えられ、今日この日を迎えることができているのだと実感しています。その方々への感謝の気持ちを胸に、新たな出会いとご縁を大切にしていって、自分自身が成長できるよう、決意を新たにしていって、これからの人生を歩んでいきたいと思っております。

節目を迎えた今日、「二十歳」になることについて、考えてみましょう。成年年齢が18歳に引き下げられたことで、私たちは大人として既に社会に帰属していることとなります。自分で決定権を持つ反面、そこに責任も伴い、社会の一員としての行動を求められるようになりました。そのような中で私が思うのは、責任を持つということの大切さです。二十歳になった私たちは、これから人に支えられることだけではなく、人を支えることも求められていきます。そのために自分のやるべきことや目標を明確にし、誠実に向き合うことが必要だと思っております。周りの支えがあることを忘れず、さらに周りを支える自覚と責任を持って社会の一員として認めていただけるよう歩んでまいります。

さて、私たちの青春時代は新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け、多くの行事が中止を余儀なくされ、様々な制約を受けた時期でした。友人の顔もマスク越しに見ることが当たり前になり、楽しい思い出を作る機会も少なくなっていました。しかし、そんな中でも、私たちがなりに充実した時間にするために、前向きに物事を考え、前進しようとして日々、努力や工夫を重ねてきました。青春時代をコロナ禍と共に過ごしてきた私たちがだからこそ、この先、待ち受けている困難や試練に立ち向かい、社会に貢献していくことができると信じています。昨年からは新型コロナウイルス感染症の流行に伴う行動制限も徐々に緩和され、新しいことに挑戦できる機会が増えています。私たちの中には、既に社会人として働き社会に貢献している人がいます。また、学生として勉学に励みこれから社会に出ようとしている人など、様々な環境でそれぞれの生活を送っています。

時には挫折し、心が折れそうなきもあろうでしょう。しかし、その苦しい経験が、成長のヒントとなります。自分が今置かれている状況や環境から学びを吸収して、必死に駆け抜ければ、必ずと結果もついてくるはずですよ。盛岡の先人、米内光政はこう言いました。「人間と言うものは、いついかなる場合でも、自分の巡り合った境遇を、もっとも意義あらしめることが大切だ」と。自分自身の成長のために、今の自分は何ができるのかを考えていきたいと思います。

最後に、この盛岡の地に育ったこと、沢山の地に巡り合えたこと、色々なことを経験してきたことを心から誇りに思っています。その誇りを胸に、希望に満ち溢れた未来を創っていくように、より一層精進していくことを誓い、二十歳の決意といたします。

◇ アトラクション（14時30分～15時）

二十歳のつどい実行委員会による企画プログラム

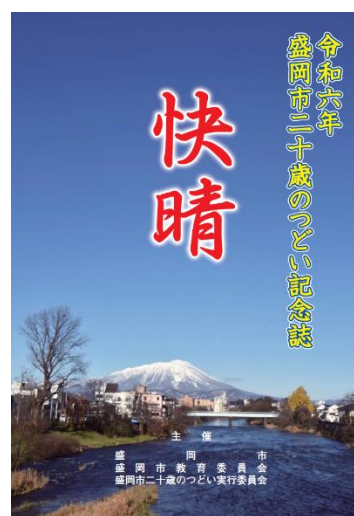
・実行委員による進行のもと、テーマ『快晴』に基づき作成した社会参加活動報告VTRの上映を行い、その後、岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学の3つの学生さんさ踊り団体に登場していただき、盛岡さんさ踊りを披露していただきました。

◇ 記念誌

テーマ『紡ぐ～spin2.0～』のもと、実行委員会が企画・制作した記事を含む記念誌が二十歳のつどい参加者全員に配布されました。

【掲載内容】

- ・実行委員長挨拶・二十歳を祝う言葉・二十歳の決意
- ・社会参加活動報告
- ・おすすめの飲食店紹介！GO！MORIOKA
- ・もりおかローカル線ナビ
- ・若者の消費契約トラブル
- ・各中学校からのメッセージ



◇ 盛岡市二十歳のつどい実行委員会

令和6年盛岡市二十歳のつどい実行委員会は、二十歳8人（社会人1人、学生7人）で活動しました。



令和6年盛岡市二十歳のつどい実行委員会のメンバー

実行委員会が行った主な活動内容は、次のとおりです。

○ 実行委員会議・広報活動

無限の可能性を持つ二十歳の方々が、前向きな気持ちと元気はつらつとした姿勢で明るい未来を切り拓いていく、という決意を持って進めるように、どこまでも澄み渡る青空に重ね合わせて、テーマとして設定し、記念誌・アトラクションの企画について、繰り返し話し合いが重ねました。

また、実行委員会の活動内容を周知するため、ラジオ出演などの広報活動を行いました。

○ 社会参加活動

「盛岡市動物公園ZOOMO」や「材木町よ市」、「盛岡神子田朝市」取材しました。運営団体の代表者や利用者の声を聞き、盛岡の魅力についての理解を深めました。活動の様子は、記念誌への掲載及びアトラクション内でのVTR上映で報告を行いました。

◇ YouTubeでのオンデマンド配信

○式典およびアトラクションの様子をYOUTUBEでオンデマンド配信を行いました。

1月15日（月）12：00頃～ 再生回数：1,375回 ※再生回数は令和6年3月14日時点